

にら新品種「ゆめみどり」の 1 年 1 作連続収穫 による単収向上技術の実証

要約

1 年 1 作連続収穫栽培により、にら「ゆめみどり」は 4.59t/10a、対照品種は 5.46t/10a と、一般的な 2 年 1 作型栽培よりも高い単収が得られた。品種間差では、単収は対照品種が高かったものの、AL 品率や葉幅は「ゆめみどり」が優れた。

○ 展示のねらい

ウォーターカーテン保温と点滴灌水、にら「ゆめみどり」を組合せ、1 年 1 作連続収穫作型の普及に向けた栽培技術及び単収の向上効果を実証する。

○ 主な成果

- ・単収は、「ゆめみどり」で 4.59 t /10a、対照品種で 5.46t/10a であった。
 (「ゆめみどり」は、調査株にネダニ類の被害があったため、やや減収した。)
- ・収穫回数は、暖秋の影響による過剰分げつや寡日照によって生育遅延が見られ、計画より少ない 4 回となった。
- ・AL 品率と葉幅は、平均で「ゆめみどり」が 56.6%、8.35mm、対照品種が 48.6%、8.09mm であり、どちらも「ゆめみどり」が高かった。
- ・表皮剥離は、両品種とも発生は見られなかった。

	捨て刈り	1 番刈り	2 番刈り	3 番刈り	4 番刈り	平均
収穫日 (収穫間日数)	10 月 10 日	11 月 11 日 (32 日)	12 月 21 日 (40 日)	1 月 29 日 (39 日)	3 月 20 日 (50 日)	(40.25 日)

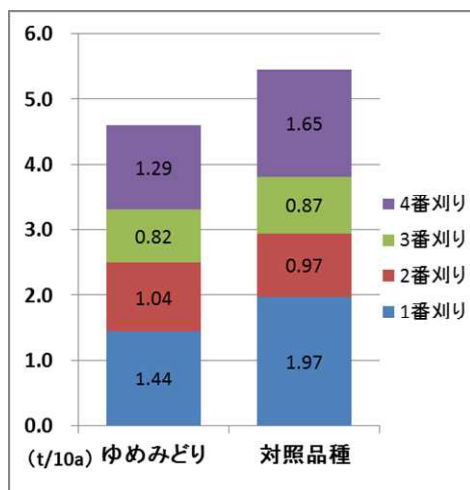


図1 番刈り別収穫量 (t/10a)

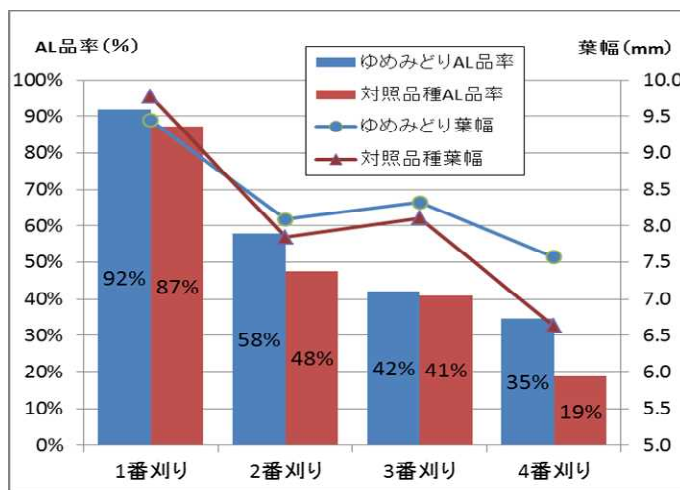


図2 番刈り別 AL 品率 (%)・葉幅 (mm)

○ 今後の方向性

1 年 1 作では株養成期間が短く分げつが多くなりやすいため、品質が低下しやすいが、単収向上と年内に品質のよい 1 番刈りが扱えるメリットは大きい。今後は、品質の低下しにくい「ゆめみどり」を中心に、播種数、温度管理等を再検討し、単収及び品質向上を図る。

実施機関：河内農業振興事務所経営普及部 実施場所：宇都宮市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315